

令和6年度 第1回

希望郷いわてモニターアンケート

多文化共生に関する意識調査

【報告書】

令和6年7月

岩手県ふるさと振興部国際室

I アンケート調査の概要

【多文化共生について】

「多文化共生」とは、国籍や民族等の違いに関わらず、全ての人がお互いの文化的背景や考え方を理解し、地域社会を支える主体として共に生きることです。

1 調査課題名

多文化共生に関する意識調査

2 調査の目的

調査結果を、岩手県多文化共生推進プランの改訂及び本県の多文化共生施策の推進の参考としようとするもの。

3 調査内容

- (1) 「多文化共生」の認知度
- (2) 外国人との接触意識
- (3) 外国人住民についての意識
- (4) 外国人住民とのつきあい
- (5) 外国人住民に期待すること
- (6) 多文化共生のためにしたいこと
- (7) ILCに期待する効果
- (8) 多文化共生のために必要な取組
- (9) 多文化共生についての自由意見

4 調査期間

令和6年5月1日(水)～5月15日(水)

5 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

6 調査対象

令和6年度希望郷いわてモニター 182名

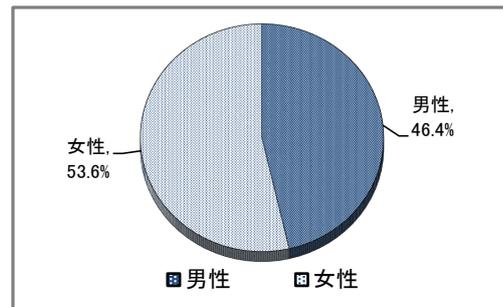
7 回答者数

153名(84.1%)

8 回答者内訳

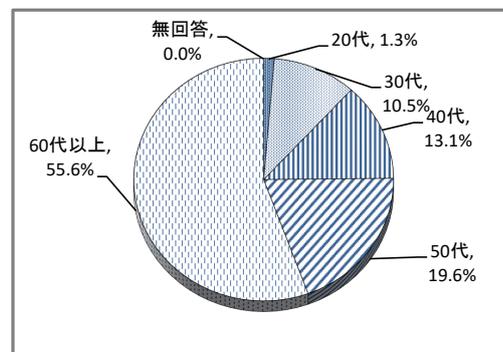
(1) 性別

男性	71
女性	82
無回答	0
計	153



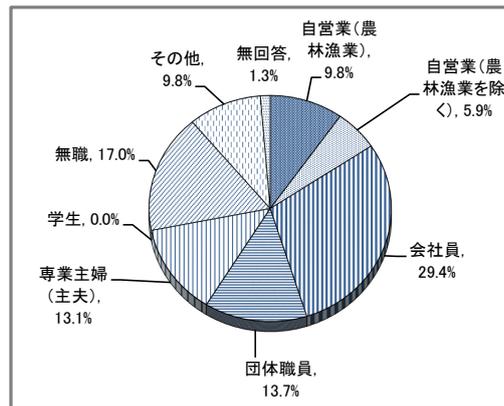
(2) 年齢

	男性	女性	合計
20代	1	1	2
30代	8	8	16
40代	11	9	20
50代	8	22	30
60代以上	43	42	85
無回答	-	-	0
計	71	82	153



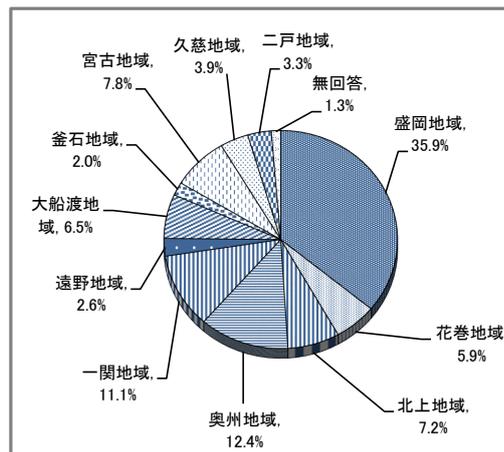
(3) 職業

	男性	女性	合計
自営業(農林漁業)	8	7	15
自営業(農林漁業を除く)	2	7	9
会社員	25	20	45
団体職員	10	11	21
専業主婦(主夫)	1	19	20
学生	0	0	0
無職	20	6	26
その他	4	11	15
無回答	1	1	2
計	71	82	153



(4) 居住地

	男性	女性	合計
盛岡地域	21	34	55
花巻地域	6	3	9
北上地域	4	7	11
奥州地域	10	9	19
一関地域	10	7	17
遠野地域	1	3	4
大船渡地域	6	4	10
釜石地域	2	1	3
宮古地域	8	4	12
久慈地域	0	6	6
二戸地域	2	3	5
無回答	1	1	2
計	71	82	153

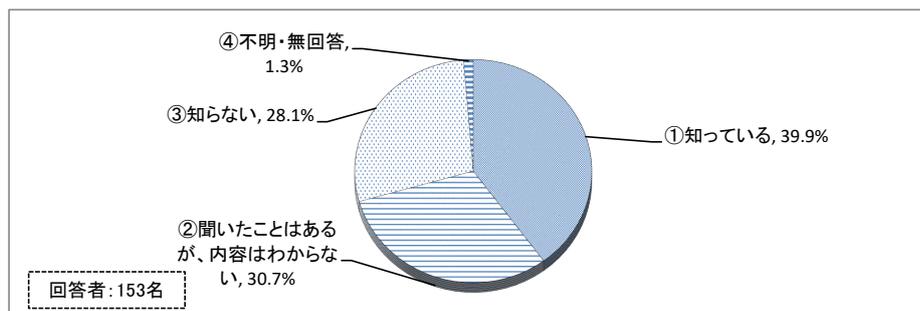


〔注 グラフの使い分けについて〕

1つを選択する質問については回答の割合を示すために円グラフを、複数を選択する質問や回答内容の分析については、回答数を示すために棒グラフを使用しています。

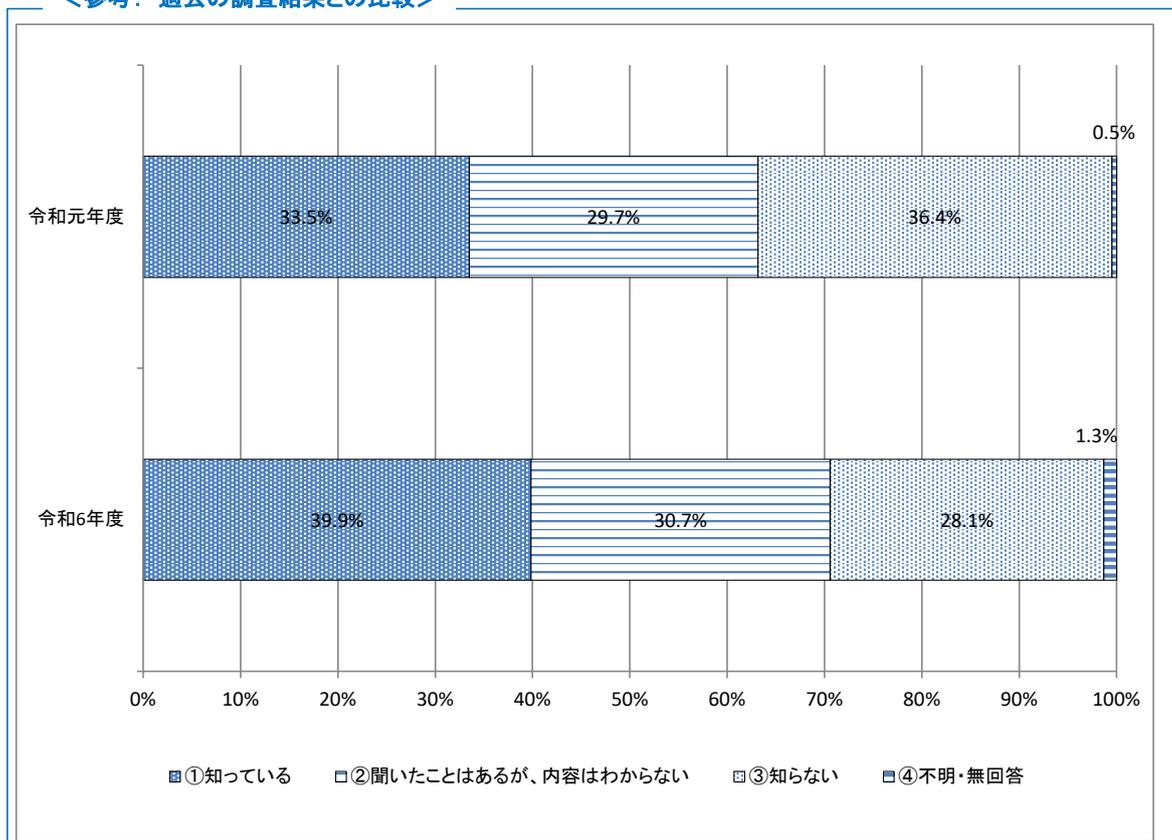
Ⅱ アンケート集計結果

問1 「多文化共生」ということばをご存知でしたか。



- 「知っている」と答えた人の割合は、全体の39.9%にとどまっている。
- 「知っている」と答えた人と「聞いたことはあるが、内容はわからない」と答えた人を足した割合は、全体の70.6%と半分以上を占めている。

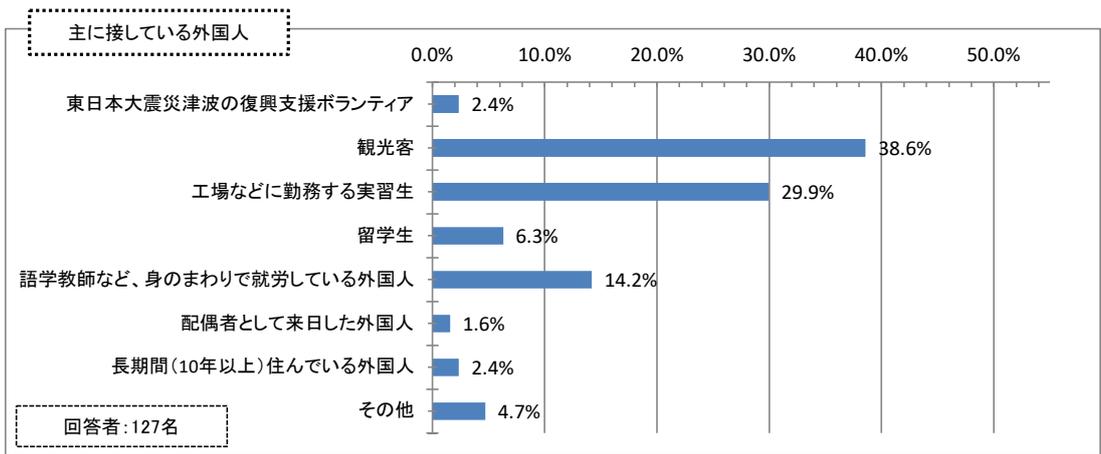
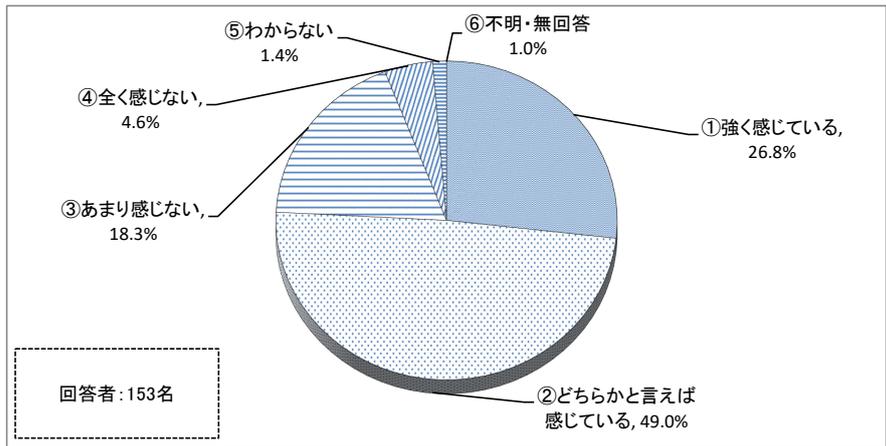
<参考: 過去の調査結果との比較>



- 「知っている」と答えた人の割合は、平成元年度調査から6.4%増加した。
- 「知らない」と答えた人の割合は、令和元年度調査から8.3%減少した。

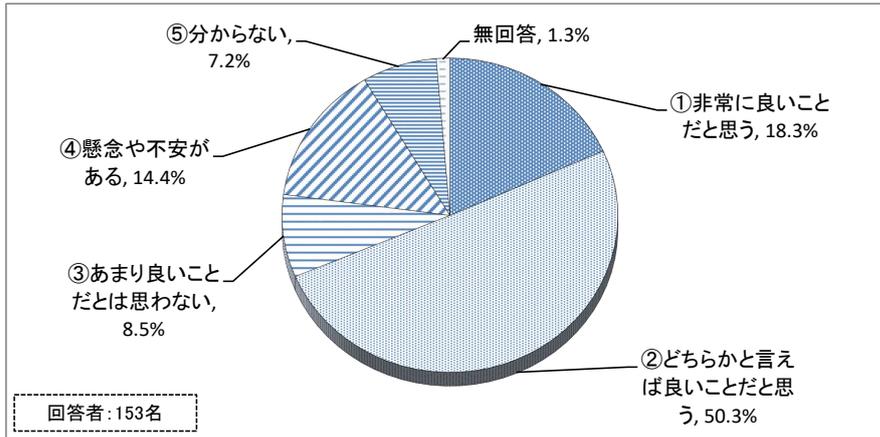
問2 岩手県民が外国人と接する機会が増えていると感じますか。

(①強く感じている又は②どちらかと言えば感じていると回答した方は、主に接していると感じる外国人を1つ選択)



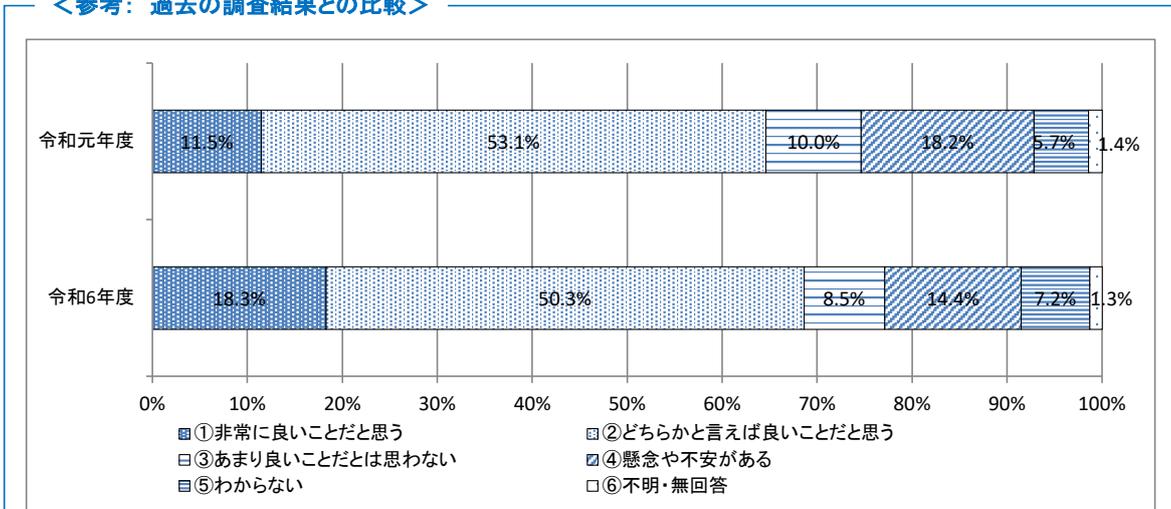
- 岩手県民が外国人と接する機会が増えていると感じている人(「強く感じている」または「どちらかと言えば感じている」と答えた人)の割合は、75.8%と過半数を超えている。
- 岩手県民が主に接する外国人として、「観光客」を筆頭に、次いで「工場などに勤務する実習生」、「語学教師、など身のまわりで就労している外国人」の割合が高くなっている。

問3-1 外国人住民が増えることについてどのように思いますか。



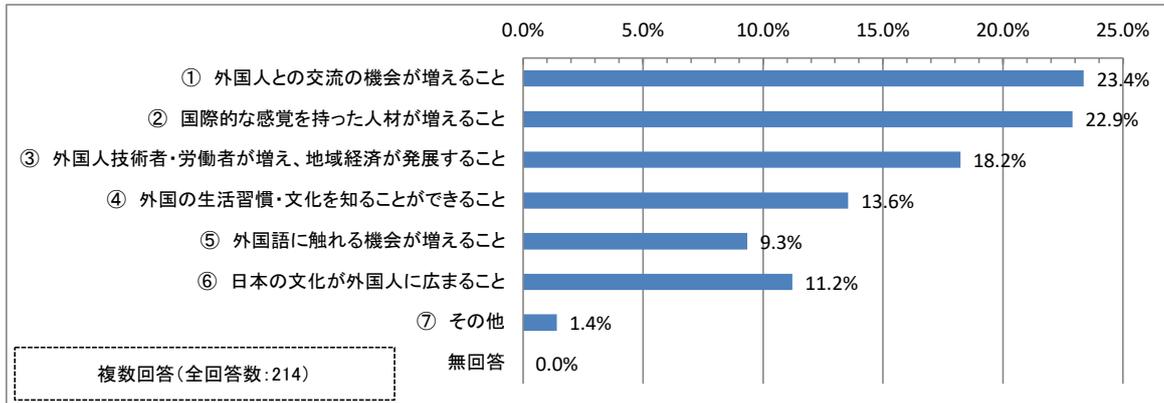
- 外国人住民が増えることについて好意的に答えた人（「非常に良いことだと思う」または「どちらかと言えば良いことだと思う」と答えた人）の割合は、68.6%と過半数を超えている。
- 外国人住民が増えることについて消極的に答えた人（「あまり良いことだとは思わない」または「懸念や不安がある」と答えた人）の割合は、22.9%にのぼっている。

<参考：過去の調査結果との比較>



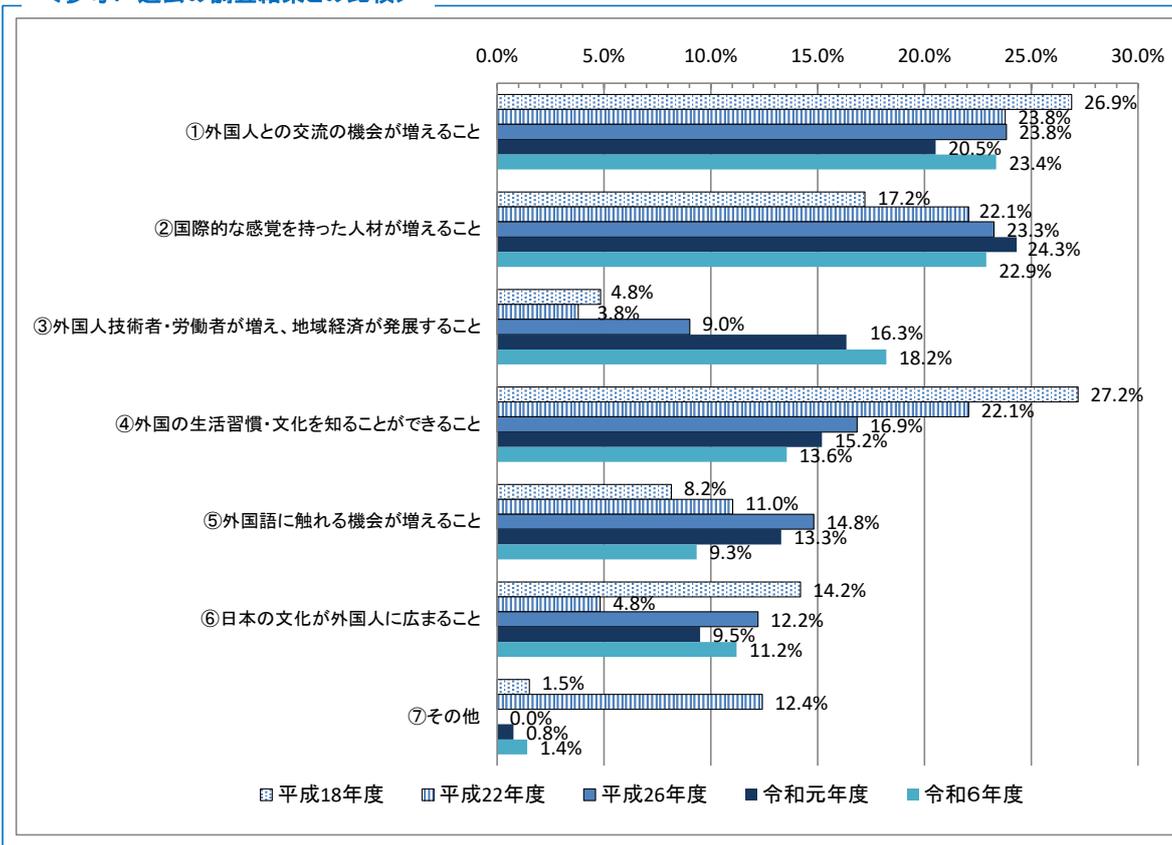
- 外国人住民が増えることについて「非常に良いことだと思う」と答えた人の割合は、令和元年度調査から6.8%増加した。
- 外国人住民が増えることについて消極的に答えた人（「あまり良いことだとは思わない」または「懸念や不安がある」と答えた人）の割合は、令和元年度調査から5.3%減少した。

問3-2 (問3で①非常に良いことだと思う又は②どちらかと言えば良いことだと思うと回答した方)
地域に外国人が増えることで、どんなことを期待しますか。(2つまで選んで回答)



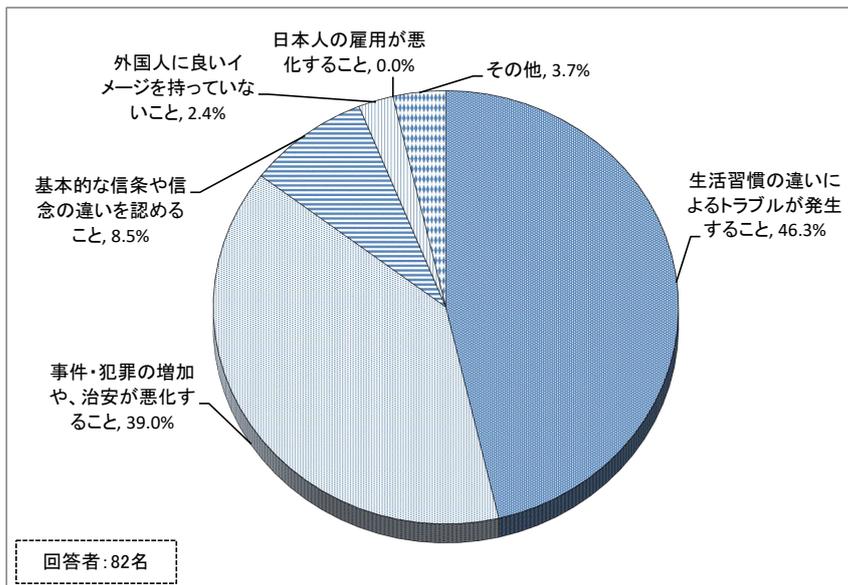
○ 地域に外国人が増えることで、外国人との交流機会や国際的な感覚を持った人材の増加が特に期待されている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



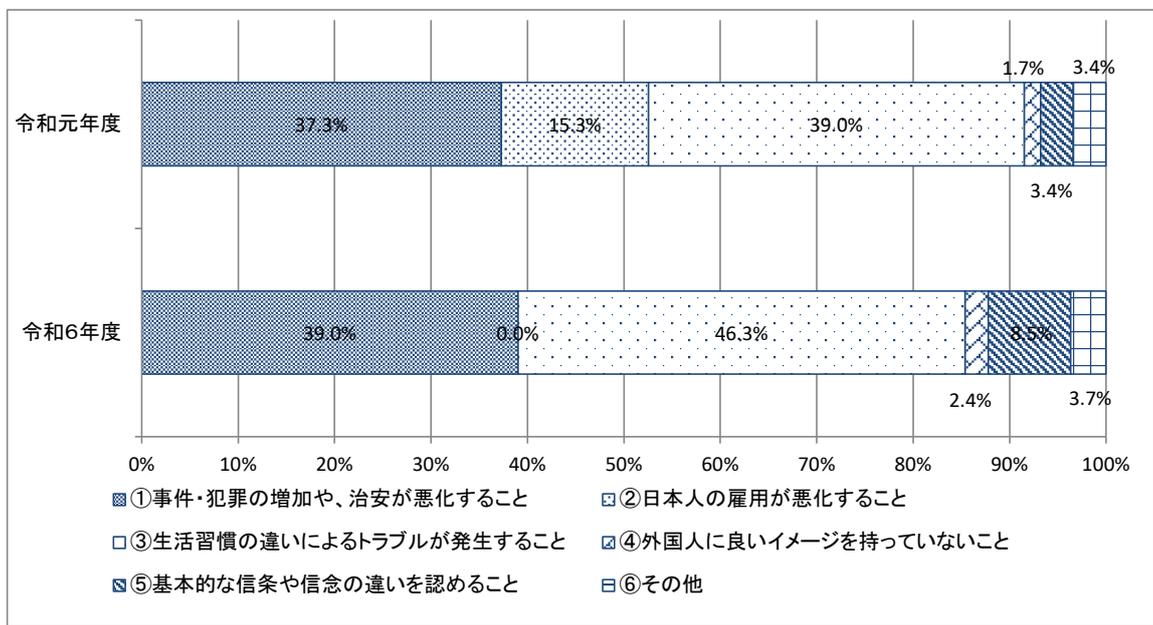
○ 外国人技術者・労働者が増え、地域経済が発展することに対する期待が高まっている。
○ 調査の回を追うごとに、外国の生活習慣・文化を知ることへの期待の割合が低くなっている。

問3-3 (問3で③あまり良いことだとは思わない又は④懸念や不安があると回答した方)
 どのようなことを懸念したり、不安に思ったりしますか。(1つ選んで回答)



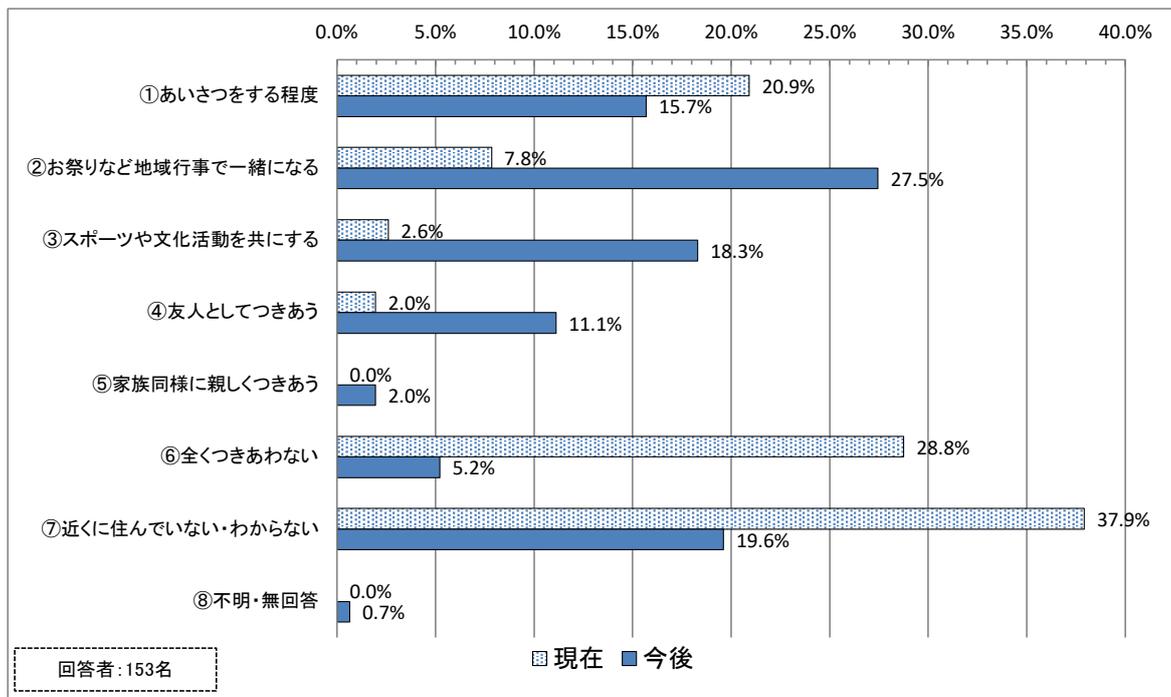
- 生活習慣の違いによるトラブルが発生することに対する懸念や不安を回答する割合が最も高くなっている。
- 次に、事件・犯罪の増加や治安が悪化することに対する懸念や不安を回答する割合が高くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



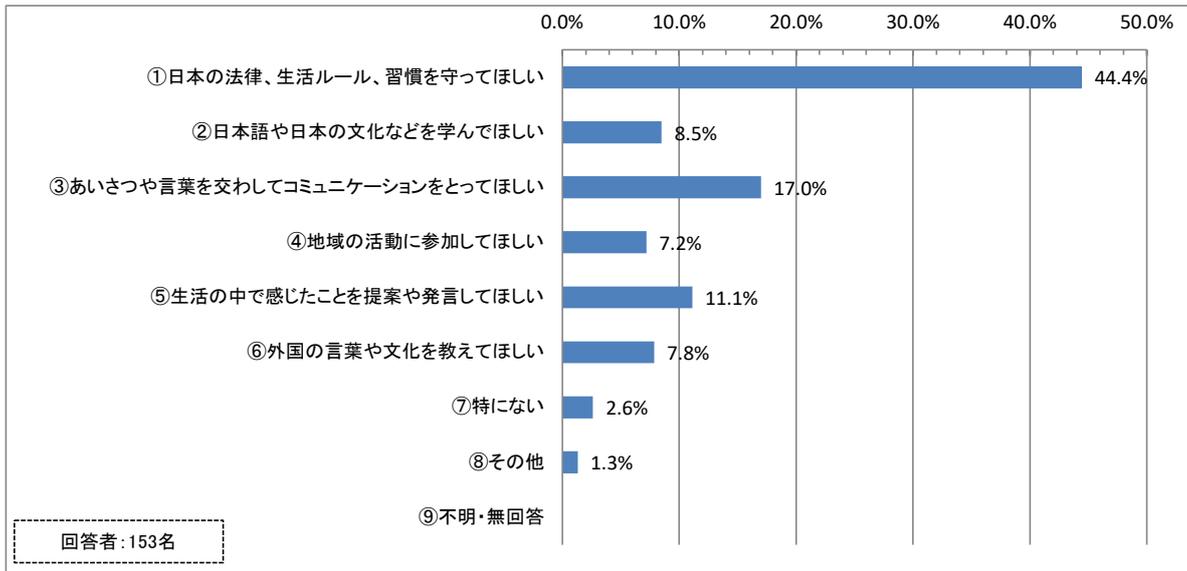
- 事件・犯罪の増加や治安が悪化することに対する懸念や不安が、令和元年度から1.7%減少している。
- 日本人の雇用が悪化することへの懸念・不安が令和元年度から15.3%減少した一方、生活習慣の違いによるトラブルが発生することへの懸念・不安が7.3%増加している。

問4 あなたは現在、地域に暮らす外国人とどのようなつきあいがありますか。また、今後どのように接していきたいと思いますか。(現在と今後について、1つ選んで回答)



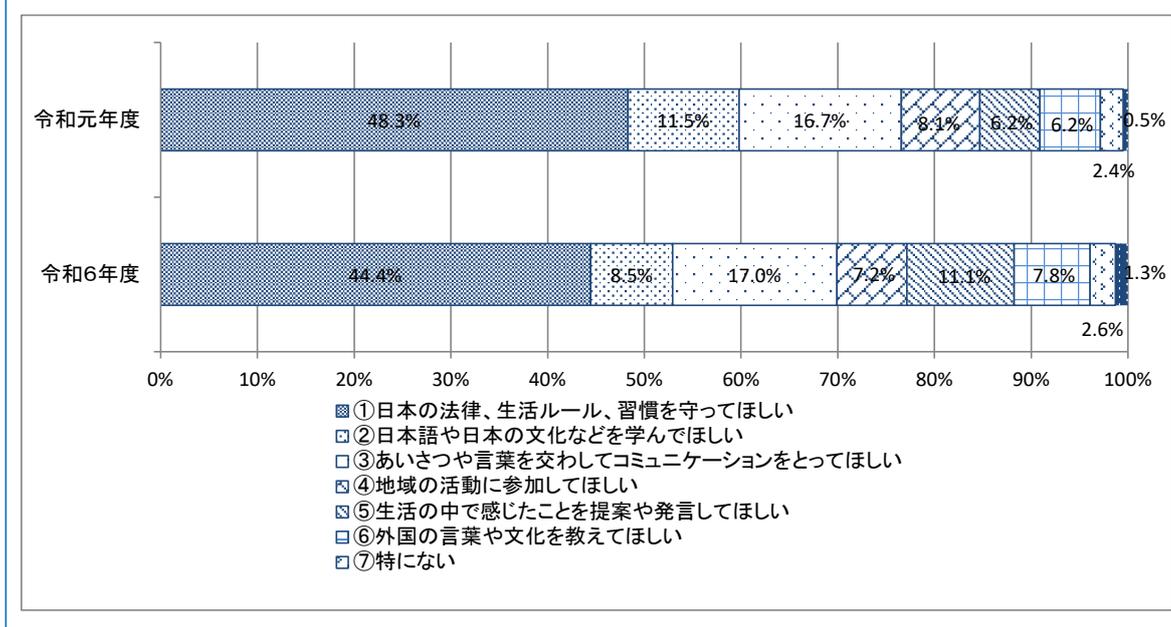
○ 現状として、「近くに住んでいない・わからない」と回答した人が最も多く、全体の37.9%を占めている。
 ○ 今後のつきあいについて、「お祭りなど地域行事で一緒になる」「スポーツや文化活動を共にする」「友人としてつきあう」の3項目の割合が、現在と比べて高くなっているほか、「全くつきあわない」と回答した人の割合が現在と比べて大きく減少していることから、外国人との交流に対して積極的な姿勢がみてとれる。

問5 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、外国人住民にどのようなことを期待しますか。(1つ選んで回答)



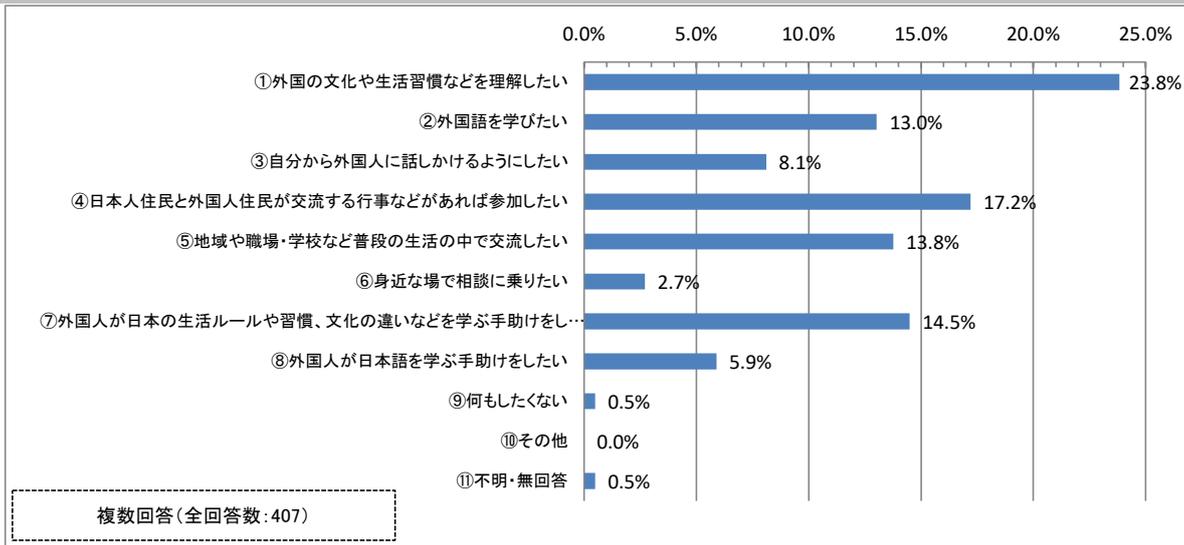
○ 外国人住民に期待することとして、「日本の法律、生活ルール、習慣の順守」を回答する割合が最も高くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



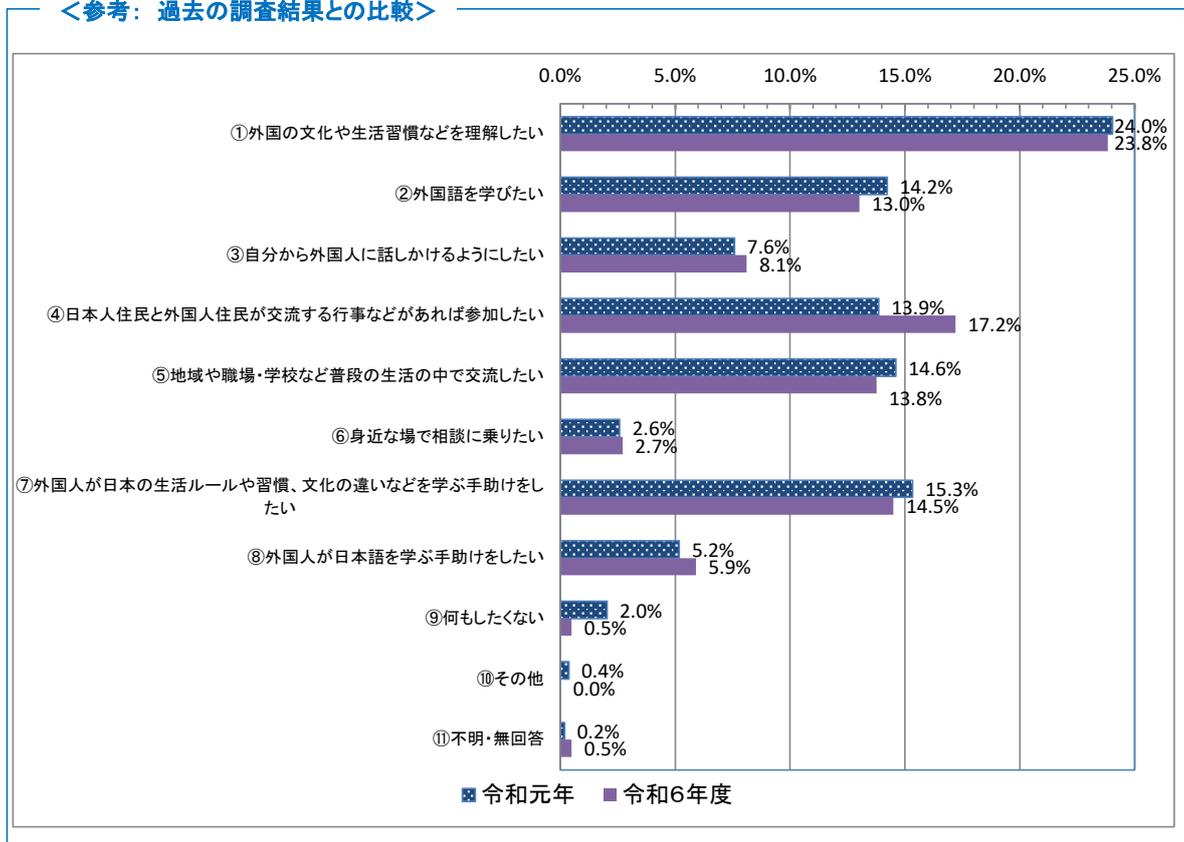
- 「日本の法律、生活ルール、習慣を守ること」、「日本語や日本の文化を学ぶこと」と回答した割合が、令和元年度調査から減少している。
- 「生活の中で感じたことを提案や発言すること」、「外国の言葉や文化を教えること」と回答した割合が令和元年度調査から増加

問6 外国人住民と共に暮らしやすい社会にするために、あなたはどのようなことがしたいですか。(3つまで選んで回答)



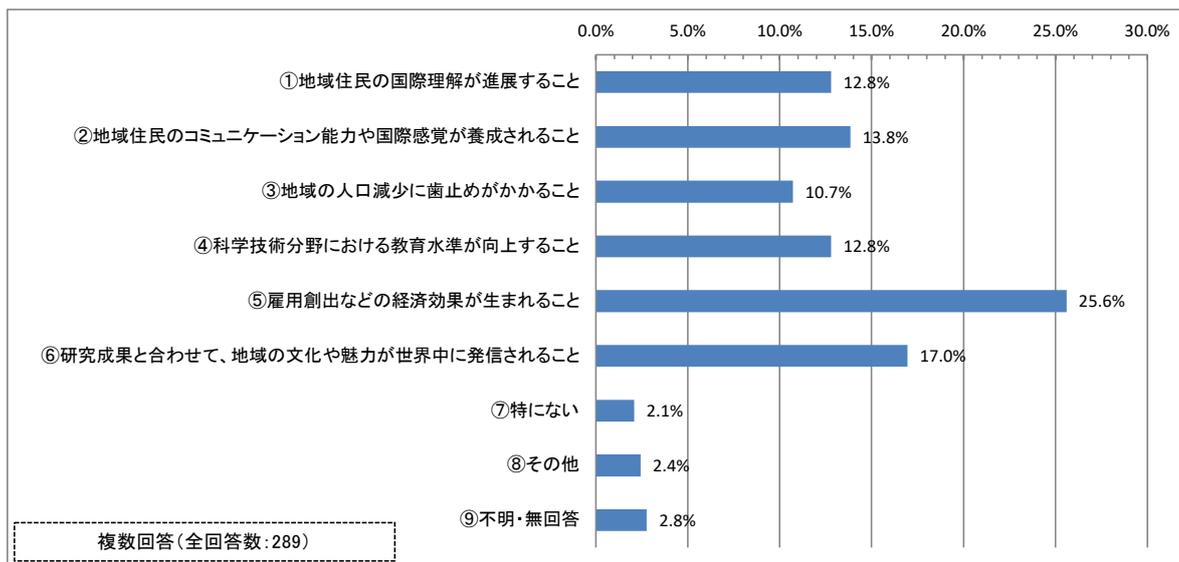
○ 「外国の文化や生活習慣の理解」への意欲を示す回答の割合が最も高くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



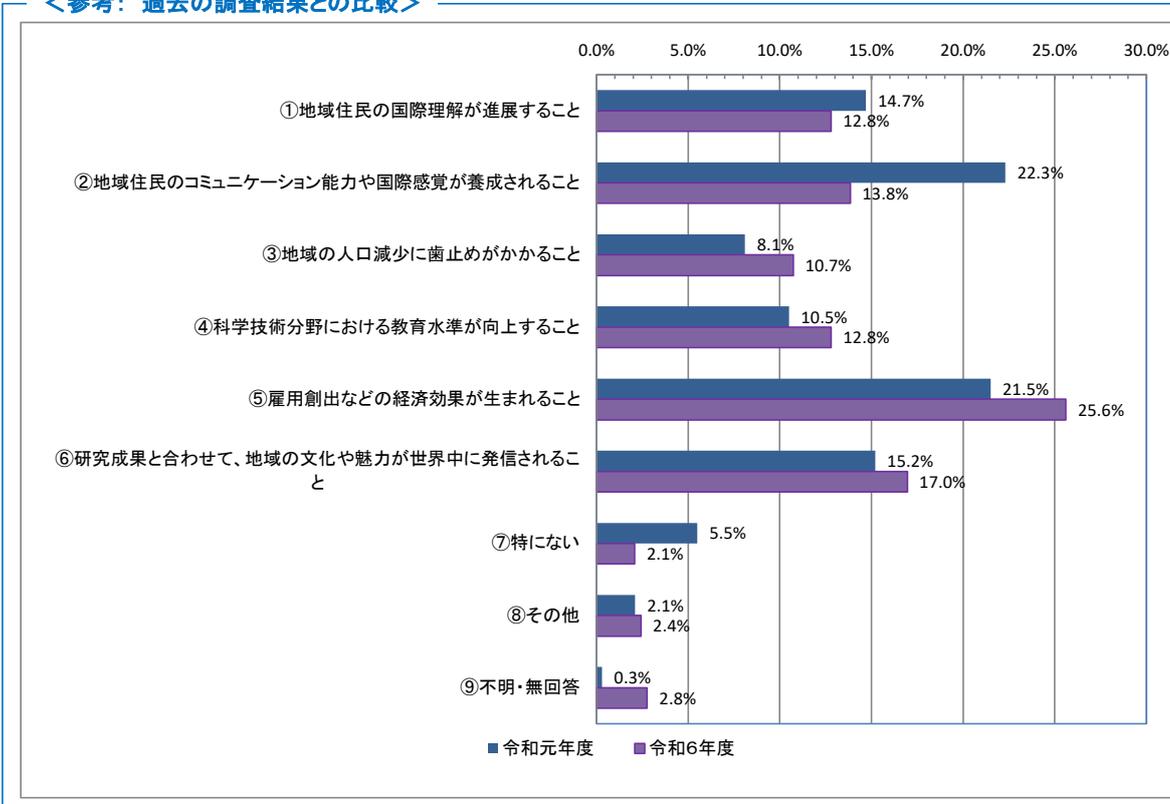
○ 「外国の文化や生活習慣の理解」、「外国語を学びたい」と回答とした割合が減少した一方、「日本人住民と外国人住民が交流する行事などに参加したい」と回答した割合が3.3%増加した。

問7 ILCの実現により、世界最先端の研究を行うため、海外から大勢の優秀な研究者やその家族などが本県に移住することが予想されますが、このことについてあなたはどのような効果を期待しますか。(2つまで選んで回答)



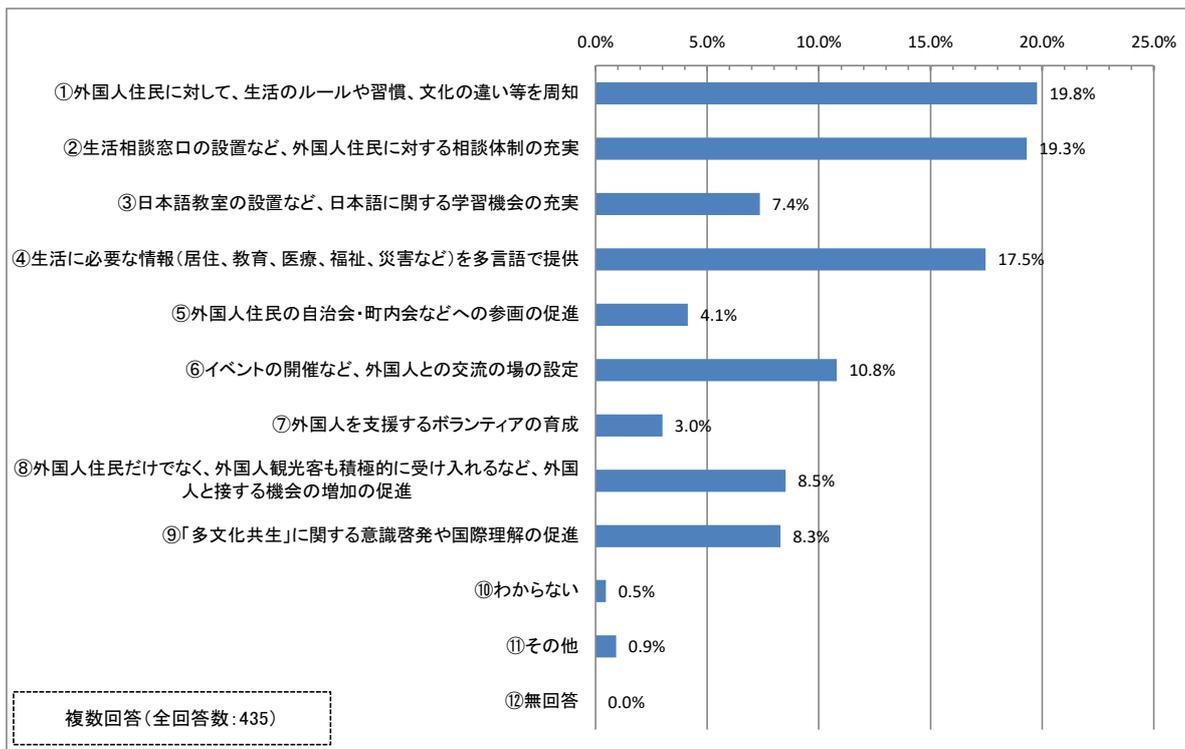
○ ILC実現の効果として、「雇用創出などの経済効果が生まれること」が最も期待されており、次いで、「研究成果と合わせて、地域の文化や魅力が世界中に発信されること」が期待されている。

<参考: 過去の調査結果との比較>



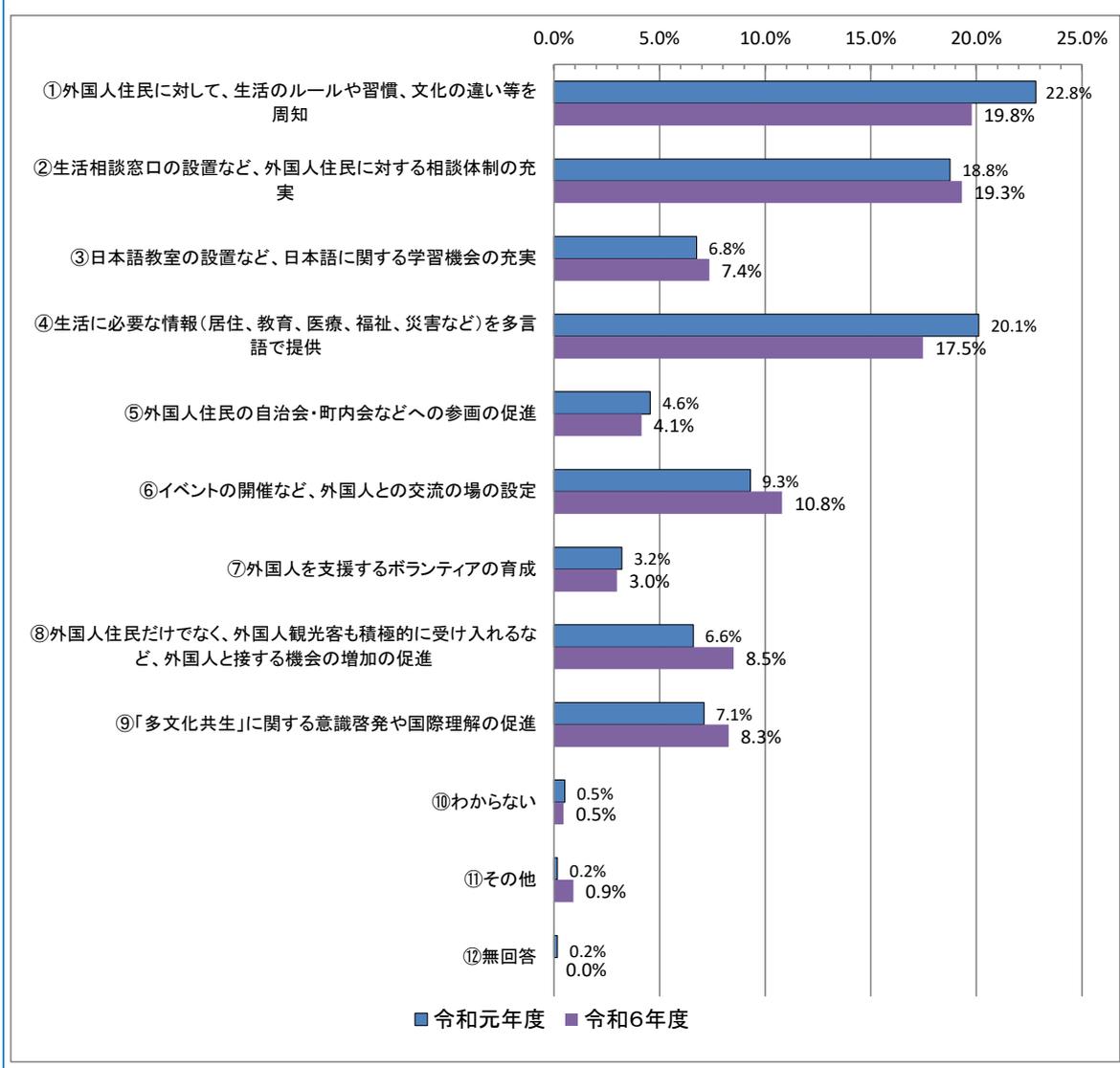
○ 「雇用創出などの経済効果が生まれること」に対する期待が令和元年度調査から高まっている。

問8 多文化共生社会づくりのためにどんな取組が必要だと思いますか。(3つまで選んで回答)



○「生活のルールや習慣、文化の違い等の周知」、「生活に必要な情報の多言語提供」、「相談体制の充実」が必要だと考える人の割合が高い。

<参考：過去の調査結果との比較>



○ 「外国人住民に対して、生活のルールや習慣、文化の違い等を周知」することの必要性を感じると回答した割合が令和元年度調査から3%減少している。

○ 「イベントの開催など、外国人との交流の場」や「外国人と接する機会の増加の促進」を必要だと考える割合が高くなっている。

問9 その他、多文化共生について、ご意見等ありましたら、ご記入ください。

【寄せられたご意見等 73件】

- | | |
|----------------------------|-----|
| ○ 「多文化共生」の啓発に関する事 | 3件 |
| ○ 多文化共生の理解やその醸成に関する事 | 5件 |
| ○ お互いに理解し合う姿勢に関する事 | 6件 |
| ○ 多文化共生社会のイメージや自身の関わりに関する事 | 5件 |
| ○ 多文化共生社会の懸念に関する事 | 7件 |
| ○ 多文化共生社会に向けた取組に関する事 | 13件 |
| ○ 外国人に求める事に関する事 | 2件 |
| ○ 自身の経験に関する事 | 9件 |
| ○ 自身の今後の活動等に関する事 | 3件 |
| ○ ILCに関する事 | 1件 |
| ○ その他 | 19件 |

問9 その他、多文化共生について、ご意見等ありましたら、ご記入ください。

○ 「多文化共生」の啓発

- ・「多文化共生」について、県民に広く浸透させる必要があると感じます。また、在留外国人との交流をはじめとした施策を展開していく上で、公益財団法人岩手県国際交流協会の役割が大きいのと考えます。しかし共に施策展開の両翼を担う市町村単位の国際交流協会について知名度が低いのでPRが必要で、組織規模によって事業展開ができない市町村協会に対する助成を行って組織基盤を強化する必要があるのではないかと考えます。
- ・多文化共生促進のためには、まず地域住民(日本人)の関わり意識を変える必要があるかと思えます。
- ・当県は先進県に比べ在留外国人は少ないので、すぐに仲間に受け入れる意識が希薄である。相手を理解して受け入れるため「多文化共生」に関する意識啓発や国際理解の促進が必要と考える。

○ 多文化共生の理解やその醸成

- ・多文化共生に関して、まずは寛容なコミュニケーションの場と、自分たちのライフスタイルを変えていく地域社会的コンセンサスが必要だと感じています。私の住んでいる地域では、出会う外国人のほとんどが工場などで働く研修生なのですが、研修生は基本的にその研修生コミュニティの中で暮らしており、日本人生活者との交流はほとんどありません。そのため、現状では多文化共生は見かけ上はできていますが、外国人と日本人が分断しているため、今後人手不足の対応策として、現在より外国人が増えてきた場合に、社会の一体性が保たれないフランスのような状況になる懸念をしています。その結果(フランスと同様に)同化政策を行うしかなくなり、結果として多文化共生を実現できなくなることを避けるためにも、早めにコミュニケーションを伴った寛容なマインドの醸成と、必要に応じて日本人我々のライフスタイルを変えていく地域的なコンセンサスが必要と感じています。
- ・多文化共生社会でないと少子高齢化が進む日本では対応できない課題が生じる予想される。犯罪防止に努めながら外国人に対して互いに理解できるようルール徹底や習慣、文化について丁寧な行政がリードするとともに民間も導入することが必要と思われる。
- ・日本人が諸外国に行った時にいろんな不安があるように、外国人が日本に来訪または居住する時の不安を少なくするため、多言語のパンフレットだけではなく、動画や直接的なレクチャー、日常生活や慣習の違いを理解していただくことが必要と思えます。逆に日本人は、諸外国との違いを理解する必要があると思えます。
- ・多文化共生には、相互理解が不可欠であり、具体的な施策を官民協働で推進していただければと思います。
- ・外国人労働者を都合よく安い賃金で働かせられる人としてとらえているように感じる。お互いがウインウインの関係になるようにしたいが、日本人は物価高、低賃金に苦しみ、若者は今や結婚できず子供をつくる(育てる)ことは実現不可能な”夢”となってしまっている。日本人にゆとりがなければ多文化共生は難しい。

○ お互いに理解し合う姿勢

- ・あまりきめつけることなく自然体で仲良くなれば良いと思う。
- ・移住者の国籍がたとえ日本だとしても、過疎地域において、先入観や噂によって傷ついたり生活しづらいことも多々耳にします。その解決にはコミュニケーションや、お互いの意見を折り寄せる事が大切ですが、言葉やスキンシップの壁を少しでも低くして頂けるよう、行政の方や専門の方々へ寄り添っていただかなければいけないと感じます。お互いが楽しく生活できるように。
- ・これからの時代、日本人だけのコミュニティではいられないのは必然だと思うので、〇〇の国の人という枠ではなく、私たちが個人を尊重して交流する認識がとても大事になると思います。
- ・お互いの考え方や習慣を知って歩み寄っていけるように、情報提供や自然な交流の機会があると良いのではないかと。日本人外国人双方の、思い込みや誤解による排他的な感情が煽られないよう注意する必要があると思う。
- ・多文化共生はお互いの歴史文化も深く理解し知ることが必要であり、そうした機会なり支援の場を望みます。
- ・一般市民との交流の機会を設けないと共生はない。一部の支援者と陰で交流しても伝わらない。

○ 多文化共生社会のイメージや自身の関わり

- ・外国の方と接した時に、宗教に対して歴史的に長い経験を持った人々と、日常生活を送ることの難しさを感じます。他を理解する事なしに、融和は図れないと思う一方で、理解する難しさも感じました。神や仏様を同等に認めてしまふ、自己の感覚に矛盾を感じてしまひながら、それを理解させるべき、手段を持ち得ていない事に戸惑いを感じています。交流自体には反対はありませんが、今までに出会った外国人と宗教に対する日常的な意識の違いが強く感じました。彼らではなく、受け入れる我らの方がもう少し国際的な宗教観を持つべきだと思いました。
- ・私が学生の時は外国の方との交流する機会がそれほど多くなく街で外国の人とすれちがう時、笑顔で会釈する事が精一杯だったかと思ひます。今は外出先等で外国の人と会うことも日常的で相手の方から挨拶される事もあります。今の子供達は考え方も柔軟性もあつて、いろいろな意見も取り入れやすいかと思うので外の世界に向けて一歩前進してほしいです。
- ・近所に数名のアジア系外国人が住んでいることは知っているが、会うことはほとんどない。日本人同士でも近所付き合いが希薄になっているご時世で、外国人と近所付き合いには一歩引いているのが正直なところですが、でも、接することがあれば「多文化共生」を意識し接したいと思ひます。
- ・違いをそのまま受け入れる。日本人でも良い人もいれば悪い人もいる。海外の方もきっとそう。これはしょうがない。
- ・私は週に一度国際交流協会にて語学を学んでいます。ずーっと以前から他国の人たちとコミュニケーションをとりたいて、それにはどこに行けば良いのかまだまだ岩手県には外国人が少ないと思ひます。就労している方だとなかなか出会いがありません。もっといろいろなイベントをして互いの国の良さ分りあい友人になりたい。

○ 多文化共生社会の懸念

- ・ 共生のための壁はたくさんあると思いますが、外国人居住者が必要あることを認めることからでしょうか？
- ・ 「多文化共生」という言葉の意味や意義を周知することをもっと進めていった方が良いと思う。周知が十分でないまま活動を進めても、ついていけない人がでてくると感じた。
- ・ 「郷に入っては郷に従え」ということを理解できる方々であれば多文化共生も問題がないと思われます、ただし多種多様な人種であったり、主義主張の違いなど自身の文化的背景を押し通すような方々が増えていくことで、地域住民とのトラブルが増えるのかもしれないという思いもあります、このような考えが杞憂となればいいのですが、迎える側の私たち日本人の意識改革も必要ではないかと思われます。
- ・ 今いる住民が来た人に合わせるのか、来た人が今いる住民に合わせるのか、いい塩梅への理解が進まない。
- ・ 「多文化共生」についての理解が進んでいないと思われるので、まずはそこから考えます。
- ・ 少子化とも相まって、純日本人の割合が住民の半数未満になる未来が来るのではないかという不安がある。これまで日本人同士から生まれる子が多数派で、その歴史や状態に慣れているので、多文化共生が悪いとは思わないが、純粋に不安を感じる。
- ・ 実生活のなかで、居酒屋やコンビニで働く外国人を見かける機会が多くなりました。あの方々は困っている事はないのか心配です。県でも民間でも、相談できる窓口はありますか？岩手に住むということは、労働と消費、経済に携わっている。大切にしてください。

○ 多文化共生社会に向けた取組

- ・ 観光客向けに対応できる人(英語を話せる人)をできるだけ多くなると日本人も観光客も安心して生活できるので英語を話せる人を増やしたい。
- ・ 地元の国際交流協会主催のイベント等に参加するようにしているが、参加している顔ぶれが同じように感じる。子供たちの参加も含め、どのように地域に情報発信していけばよいのか考える機会があればと思う。
- ・ 民間レベルでの外国人雇用は、周辺で見かけますが、他国文化の交流の機会をモット、もっと設定し、継続的に実施してもらいたい。
- ・ 同じ国の人々が特有のコミュニティを作ることがあると思うが、地域住民と互いに排他的になることなく、交流と相互理解の場を数多く設けられればいい。
- ・ 今現在は外国人との交流はありませんが、機会があれば参加したいと思っています。そんな行事などが、今後増えていけば良いのかなと思います。
- ・ コミュニケーションが難しい場面でてくると思うので、まず生活に必要な情報提供できる取組が必要だと思います。生活のルールや習慣は、私たちは不安にならない生活維持したい。
- ・ 東北の地”岩手”という素晴らしい地方があると、外国の方に知って欲しいので、受け入れる”こちら側”の意識を高めることが大切だと思います。お互いに生き生きと協力し合いながら生活する為には、日本の中で(岩手県が持っている)習慣などを学習し、理解してもらうことは大切。
- ・ この件は世代によって認識・理解度に開きが大きい印象があります。県主導によるあらゆる角度からの情報発信や各市町村単位での住民への啓蒙活動の展開など多面的な周知で機運醸成して行きたいものと考えております。一部では行っていると思いますが、小中学生にターゲットを絞った全県的な『多文化共生』授業プログラムを展開し若年層からの機運醸成もひとつの戦略かと思えます。
- ・ 外国人労働者や観光客を受け入れることは異文化交流の促進が進みとても良い事だと思うが、ポイ捨て問題や非常識な行動など外国人が増えることにより地域の治安悪化の恐れがあるため十分に注意して受け入れる必要があると思う。そのようなルールをしっかりと教え込む人を育てる必要があると思う。そうすることで日本人が窮屈な思いをせず過ごせ、多文化共存がより良いものになると思う。
- ・ 外国人と地域民との交流の場を設けてコミュニケーションの機会を多くする。外国語の通訳や翻訳をする人を多く登録したり、紹介したりして広めていく。ボランティアなりサポーターなどを各地域に派遣したり、地域の自治会や町内会などへの入会を進めたりして親睦を深める。
- ・ 役所などの窓口で外国人がいて多言語で会話する人がいれば良い。(メリット！コミュニケーションとりやすい。外人がほっとする会話が多くできる)治安の悪化をなくする。
- ・ 語学を学ぶ機会を行政が設けてくれると良いと思います。個人的には外国人と積極的に関わっていきたいという考えです。
- ・ ハラルなど、飲食店側もまだまだ追いついていない部分が多いのでは。以前、留学生に接する機会があったが、彼らにとつての日本のイメージが「アニメ」だけだったのにビックリしたことがある。ただ、動機はどうあれ、日本を選んできてくれたのだから、私たちも、もう少し積極的に交流しようとするべきだと思う。きっとヨソモノ目線による新しい発見があると思う。

○ 外国人に求めること

- ・一部の外国人だと思えますが、全国的にも事件犯罪が絶えません。最低限のルールとマナー違反をしないようにしたら厳罰を施すという啓発や取締りの徹底を入国前入国中を通じて行ってほしい。
- ・外国研修生については、ルール(ゴミ出し等)を守らないので、そういった日本のルールを研修してほしい。

○ 自身の経験

- ・機会があまりないので、国際交流協会さんに依頼し、多文化共生事業を年1度開催し、外国人との交流を図っているが、その場で終わってしまう。
- ・日本・岩手が好きで来る人は良いと思いますが、日本・世界で起きている移民問題を見ると、ただ人が増えれば良いということではないと思います。自分も海外で生活していた経験もあるので、来てくれた人には優しく接したいと思いますが、それはあくまでも日本の文化風習の中での話で、移住者の文化を安易に取り入れたり優遇すべきではないです。日本の文化風習の中で仲良くすることが望ましいです。
- ・コンビニの店員さんに外国人が増える、街中に外国人が増える、それを実感。岩手県の場合、留学などだけでなく就労する外国人が増えれば、地域の活性化、人手不足解消などにも効果があるかと。受け入れる側の努力や支援も必要。日本語を話せても読み書きができない人も多い。英語のガイドブックを用意、相談窓口を周知するなどの活動も。一方で、外国人と交流を持ちたい、特に若い人や子どもも。マッチングしたい。
- ・私の地域に1人住んでいます。夫婦仲良く、子どもさんも元気に過ごしております。そのような家庭であれば地域全体も元気をもらえます。ひとりひとり共生です。日本人も外国人も同じ人間で、皆同じをモットウにしております。
- ・現在、住んでいる地域でもさまざまな国の人たちを見かけるようになり始めの頃は、戸惑いでしたが積極的に挨拶するようにしています。はじめの一歩に取り組んでいるところです。
- ・一関市内のショッピングモール内のATMのところ若い東南アジア系の女子たちが郵便局のATMより日本円を払い出している光景に会いました。冬の寒い頃でしたが、負けずに働いていると伺い、偉いなあと思いましたね。彼女たちの一生懸命さが光っていました。
- ・自分の近くに外国人女性が4~5人で住んでいる借家があり、ゴミの出し方について教えたことがあった。
- ・先日、外国の方とお話を聞かせていただきました。日本に来て一番最初に感じることは何かとお尋ねしたら、やはり不安ですとの回答でした。何が不安かといえばお話しのできる人がいない事なそうです。地域の方でサポートしていただける同国の方を紹介してほしいとのこと。言葉もわからないので自治会などの参加にも不安があるが相手がいれば参加しやすい。初めに不安を取り除くことが一番重要ではないかと感じました。
- ・保護者の中にも外国から来た方がいます。その方のお子さんは外国語が話せるので、他の子どもたちにも外国語に触れる機会を作ってあげられるよう、語学講師として教えていただけたらうれしいです。また、最近は海外からのお客様が多くなってきましたが、お店での表記がいまだに日本語のみと言うのは残念です。話せない部分はアプリなど利用しながら積極的に受け入れ、また来て頂けるような環境を作りたいと感じます

○ 自身の今後の活動等

- ・本県に住んでいる方のお話を聞いたり、又逆に外国に住んだ事のある方のお話を聞いたりしたいです。
- ・近隣に外国人は住んでいないし、接する機会も無いので多文化共生等あまり意識(考え)したことはありません。但し以前から外国文化、風習、地理、景色には興味を持っていますので交流機会(コミュニケーション)があれば参加したいと思っています。
- ・地域においても「国際交流協会」が存在し、活動が進んでいる。幼・小・中学校に於いて、英語授業に取り組んでおり、小さい頃より英語に接する時間帯として取り組んでいる。企業にも派遣として通勤している方々が見受けられる。

○ ILCに関すること

- ・以前はグローバルを「よし」としてきたが、常識ある外国人ばかりではないということが、クルド人問題等で最近特に懸念している。ILCを根本から反対するつもりはないが、紳士的な科学者ばかりではない筈。治安の問題を聞きたい。

○ その他

- ・ 難民問題(受け入れ)など日本の政策は慎重すぎる感がある。入管での人権問題など、もっと大事に受け入れる姿勢が必要ではないでしょうか？
- ・ 田舎住まいで外国人との交流はほとんどありませんが国境を越えての共生は大いに歓迎します。
- ・ 外国人だからといって構えたりせず、自分の持っている能力の範囲内で、コミュニケーションをとる努力をすることが大切だと思います。相手を大切にすることで。
- ・ 言葉が話せないので交流の場がない。
- ・ 日本語を明らかに理解しているが、面倒な事だとわかると、日本語分からないとすぐ言う外国人が一部いることが気にかかる。
- ・ 外国人が地域で活躍している様子を新聞・テレビや広告紙等マスメディアでどんどん紹介してほしい。
- ・ 外国人でも暮らしやすい地域だとうれしいです。
- ・ 地域に住む私達が安心して生活できる事で海外から来られる方も、安心安全な暮らしが可能になって行ってほしい。当町には、大気海洋研もある事から優秀な方々も在住しているので、海のあるこの地域の発展、雇用つながってほしい。
- ・ 国際交流はとても大切であり、観光等で外国人が岩手に来ることはとてもいいことだと思う。ただ、中古車やくず鉄の回収など外国人の来訪には不安を感じています。
- ・ 県民が抱えているさまざまな不安を払拭できる体制をしっかりと整えて欲しいです。
- ・ 岩手県は交通機関であるバスや電車の本数が少なかったり、目的地に直通で行きたい所へ行く便がなかったり、とても不便だと思います。暮らしてみてもっと住みたいと思って喜んでもらえる環境を整えられたらいいと思います。
- ・ 自ら(日本人)を当たり前前に考えた「ものさし」はいずれ衰退や限界を迎える。外国人の表現は必要か？国民(県民)の義務と国民(県民)になれる定義の違いを明確に示し、出生数に優先的にインフラの投資をすべきで、苦しい時こそ生産人口増への投資が重要である。行政においても今が無ければ未来が無いのでは無い。ではなく、未来を創造できなければ今を担う意味が無いである。既に過去の行政の失敗は結果として出ている。
- ・ 大きなキャリアバックなど大量の荷物を持ち集団買い物の姿を良く見かけます。スーパーから衣料店と買い物薬しんでる姿を見て、車の免許取得を安全性を高くしっかりした教習を行なってあげてはと常日頃思っていました。夏の暑さ、冬の寒さ、気の毒を感じ…。家族と離れこの地域に力を頂き、消費も上がり人口も増え、両者ともにプラスになり、異国で待つ家もとても喜んで頂ける様な気がします。
- ・ キリスト教センターさまのような公の場で様々な国のお料理を頂く機会がありました。私はそもそも他者に積極的なタイプではないのですが、良い思い出でした。盛岡にだけでなく世界の平和や争いのない場を願います。
- ・ 岩手県に居住している外国人住民(国別等)の地域(市町村等)や労働者・留学生別等の基本的情報(推移等)を「いわてグラフ」等に掲載してほしい。観光客の来県情報も然り。
- ・ 工場などの実習性だけでなく、日本は移民をもっともっと受け入れ日本に定住していただき、各地域の人口を増やし、雇用の機会を増やす制度に変えていかないと、この国はどんどん衰退していくと思う。何年後には日本人だけでは我が国の労働力は成り立たなくなると感じている。
- ・ アイーナの中に国際交流センターがあります。前に寄付をして情報を送って頂いてました。あまり行きたいイベントがなかったです。寄付をしなくなったらどのようなことをしているか情報があまり届かない。そこに行かなければわからないのではやっている意味がないと思います。
- ・ 心が折れる情報が多い昨今、自然災害で命を奪われるのに、人が人の命を奪う。多文化共生社会が実現し、争いのない平和な社会になりますように。
- ・ 今回、ILCに関しての設問があったが少し違和感を感じた。個人的には多文化共生にILCを結びつけるのは違うような気がする。